

千環協ニュース

— 主な内容 —

- 1 通 常 総 会
- 2 合 同 委 員 会
- 3 会 員 紹 介
- 4 親 睦 ゴ ル フ 大 会
- 5 会 員 名 簿

千葉県環境計量協会

Chiba Prefectural
Environmental Measurement Association

目 次

祝辞	2
会長就任挨拶	3
会長退任挨拶	4
平成6年度第18回通常総会報告	5
平成6年度事業計画	7
平成6年度合同委員会報告	8
理事会報告	11
第19回千環協親睦ゴルフ大会	14
会員紹介	15
公害研究合同発表	17
千葉県廃棄物情報技術センター設立のご案内	20
会員名簿	23

祝 辞



千葉県計量検定所次長 齋藤博之

本日、ここに千葉県環境計量協会の第18回通常総会が開催されましたことに対しまして心からお祝い申し上げます。

本来なら、私どもの所長がまいって、皆様に御挨拶を申し上げるところですが、所用で出席できませんので私が代理をさせていただきます。

千葉県環境計量協会の会員の皆様には、日頃から計量行政に御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

近年、環境問題は地球規模で論じられていますが、最初から地球規模で発生したのではなく、私たちが使用する資源やエネルギーの増大、あるいは一部地域の汚染された大気や水、廃棄物が移動することなどによって、広い地域の環境に影響を及ぼし、深刻な問題となってきております。この問題を解決するためには、地域から着実に実施することが重要なことです。このことから千葉県では平成4年度から環境新時代を掲げて、全庁的な取り組みとして「千葉県環境会議」の設置、「千葉県環境憲章」の制定など新たな視点に立った施策を推進しているところです。

これらの施策を推進するためにも、官民が一体となって取り組まなければなりません。とりわけ環境計量証明事業に従事されている皆様の御理解と御協力をお願いする次第であります。

また、民間の研究機関の報告によりますと、環境保全はほとんどすべての産業に影響を与え、前例のないビジネスチャンスをもたらし、環境関連商品やサービスに限ってみても、市場規模は現在の2000億ドルから2000年には3000億ドルに達すると予測されており、地球環境保全に果たす企業の役割は経済発展の面からも期待されています。

このように、環境問題がクローズアップされる中、会員の皆様におかれましては、第三者のお立場で、環境計量証明事業者として、正確な測定が要求され、しかも測定する分野も広範囲にわたると同時に、高度な測定技術が要求されてくることと思われまます。

今後とも、会員の皆様におかれましては、従来にもまして測定技術の向上に研鑽されまして、より一層の事業活動を展開されますことを期待いたします。

終わりに、千葉県環境計量協会のますますの発展と、会員の皆様の一層の御活躍を祈念してお祝いの言葉といたします。

会長就任挨拶



中外テクノス(株) 中 村 豊

平成6年度、第18回通常総会において、計らずも(株)住化分析センターの加藤元彦様のあとを引き継ぎまして、7代目の会長を拝命いたしました。

加藤前会長は、環境計量証明事業激変の中で、千環協の目的である、技術力の向上と会員相互の親和と協調を保つ事によって、環境計量証明事業の正しい発展を図るために、非常に積極的に行動されました。

例えば、環境基準が改正になり、新項目が大幅に増加した事により、新環境水質基準対応特別委員会を組織して、会員の事業発展のために、行政のご担当の方々に会員の要望を申し上げ、要望書を提出しました。技術事例発表会では、自ら演壇に登壇され、研究成果を発表されました。また、18回親睦ゴルフコンペでは、華々しく優勝を飾られました。正しく、千環協の目的のために大活躍されました。

今後は、愛媛県の新居浜事業所長として、その力量を遺憾なく発揮され、ご発展を遂げられますことを願っております。

なお、今後は顧問として、諮問に答えていただく事になっております。

私は、平成元年から、総務委員長・業務委員長・副会長として、多くの方々にお世話になってまいりました。改めて厚く御礼申し上げます。

今年度から新たに、業務委員長に浅野工事(株)の高梨正夫様、技術委員長に(株)住化分析センターの佐々木正夫様に加わっていただき、副会長を(株)環境管理センターの高橋直行様に引き受けていただく事になり、大変心強く思っております。

長い間、営々と構築されてきた路線を踏襲しつつ、千環協の目的達成のために、微力を尽くす所存でありますので、全会員の皆様方の積極的なご支援、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

会長退任挨拶



(株)住化分析センター 加藤 元彦

このたび、業務上の都合で四国の新居浜に転勤を命じられましたため、任期の途中ではありますが、会長を退任させて頂くことになりました。

会長の後任は、中外テクノス(株)の中村様にお願いしましたところ、快くお引き受け頂きましたので、安心して新任地へ赴いたところでございます。

キッコーマン(株)の茂木様から引継ぎましてから2年ほどではありましたが、ほぼ大過なく務めることが出来ましたのも、副会長のキッコーマン(株)の北原様、中外テクノス(株)の中村様を初めとする各理事の皆様、そして各会員の皆様の強力なご支援の賜物であります。その上に記念品まで頂いたりしまして、申し訳なく思っております。重ねてこの場を借りて篤く御礼申し上げます。

2年という短い間ではありましたが、当協会を取り巻く環境には厳しいものがありました。一つには、私どもの上を覆ってしまったままでまだ晴れることのない長い長い平成不況であります。その中であって、各社ともよくご健闘なさっておられるご様子は、誠に同慶の至りに存じます。

さらに、環境測定業界が第二の創成期になるともいえるような水質関係の環境基準及び排水基準の大幅改訂がありました。技術レベルや投資額が、これまでの単なる延長線上とは考えにくいほど高いものが要求されているのであります。これまでもゴルフ場の農薬の指針等がありましたが、会員事業所の大部分が何らかの対応を迫られていまして、その影響はかなり大きなものといわざるを得ません。

ほかにも、環境基本法の制定がなされ、計量法や悪臭防止法の大幅改訂もありました。いずれも会員事業所の皆様はその対応のために色々ご尽力なされたことと思います。

こうした厳しい情勢にとり囲まれてはいますが、今後、中村新会長のもとで会員事業所が力をあわせれば、千葉県環境計量協会の隆盛は間違いないと確信致しております。

最後になりましたが、会員事業所の皆様方の益々のご発展・ご健勝をお祈り致しまして、私の挨拶に代えさせていただきます。

平成6年度第18回通常総会報告

1. 開催年月日 平成6年4月28日(木)
14:00~15:00
2. 場 所 ちば共済会館(2F孔雀の間)
3. 出席会員 27社(委任状17社)
通常総会成立宣言時
31社(委任状17社)
最終出席会員数
4. 会長挨拶 (株)住化分析センター
加藤元彦 会長
5. 来賓挨拶 千葉県計量検定所
斎藤博之 次長
6. 議 題(1) 第1号議案
平成5年度 事業報告の件
(2) 第2号議案
平成5年度 決算報告の件
会計監査報告
(3) 第3号議案
役員選出の件
(4) 第4号議案
平成6年度 事業計画(案)
(5) 第5号議案
平成6年度 収支予算(案)
(6) 第6号議案
規約一部改正の件
7. 議 事 総会は、高橋総務委員長司会
進行のもと開催され、出席会員
27社委任状提出17社、計44社の
出席で規約16条の57社中1/2を
満たしているため、総会として
成立することの宣言がされた。
加藤会長の挨拶、つづいて来
賓の千葉県計量検定所斎藤博之
次長の挨拶後、議事に入り、協
会規定により会長が議長を務め、
議事録作成に中外テクノス(株)本
田氏、署名人に日本軽金属(株)船
橋分析センター石澤氏、環境エ
ンジニアリング(株)大川氏が指名
された。
(1) 第1号議案(平成5年度事業
報告の件)及び第2号議案(平
成5年度決算報告の件)につい

て、一括審議に入り、キッコー
マン(株)北原成之副会長より通常
総会資料によって説明があり、
(株)永山環境科学研究所永山監事
から、収支決算書を監査した結
果、適正であるとの監査報告が
あり、全会員一致で承認された。

- (2) 第3号議案(役員選出の件)
加藤議長より、加藤会長転動に
よる退任と西理事の急逝による
欠員の選出についての議案が提
出され、議長一任の了承を得、
一度休憩に入り臨時理事会を開
き加藤議長より案が出され、全
会員一致で承認された。

新 役 員 会 長	中 村 豊
	中外テクノス(株)
副 会 長	北 原 成 之
	キッコーマン(株)
副 会 長	高 橋 直 行
	(株)環境管理センター
総務委員長	名 取 昭 平
	セイコーアイ・
	テクノリサーチ(株)
業務委員長	高 梨 正 夫
	浅野工事(株)
技術委員長	佐々木 正 夫
	(株)住化分析センター
企画委員長	岡 崎 成 美
	出光興産(株)
広報委員長	菅 谷 光 夫
	(株)ダイワ
監 事	永 山 瑞 男
	(株)永山環境科学 研究所
監 事	尾 花 貞 美
	習和産業(株)

中村新会長、高橋副会長、佐々
木技術委員長、高梨業務委員長
より、就任にあたっての抱負を
述べてもらった。

(3) 加藤議長より中村新会長へ議長が変わり第4号議案(平成6年度事業計画(案)承認の件)及び第5号議案(平成6年度収支予算(案)承認の件)について、一括審議に入り、名取新総務委員長より通常総会資料によって説明があり、全会員一致で承認された。

(4) 第6号議案(規約一部改正の件)について名取新総務委員長より千葉県環境計量協会規約第5条2項についての一部改正案が提案され、全会員一致で承認された。

下記に示す下線の部分が改正された。

「正会員は千葉県に登録した濃度、音圧レベル、振動加速度レベルに係る計量証明事業者で、本会の趣旨に賛同する法人とする。」

中村新会長よりすべての議事の終了の宣言後、加藤前会長へ感謝をあらわし、中村新会長より感謝状が渡された。

昨年新しく入会された4社を代表して(株)オーテック畑堀尚夫氏より挨拶があった。

8. 計量検定所 平成6年4月20日に千葉県中通達事項 小企業指導情報センターにおいて、事業規程及び事業規程細則の説明会の中で話があったので、割愛した。

9. 閉 会 副会長 北 原 成 之

以上の議事が正確であることを証明します。

署名人 日本軽金属(株)船橋分析センター
石 澤 善 博

環境エンジニアリング(株)

大 川 統 一

10. 出 席 者

1) 会 員

- (1) 浅野工事(株)
- (2) 旭硝子(株)千葉工場
- (3) イカリ消毒(株)技術研究所
- (4) 出光興産(株)千葉製油所
- (5) (株)オーテック研究センター
- (6) (株)上総環境調査センター
- (7) 川鉄テクノリサーチ(株)
- (8) 環境エンジニアリング(株)
- (9) (株)環境管理センター
- (10) 京葉ガス(株)生産部技術センター
- (11) キッコーマン(株)
- (12) 公害計器サービス(株)
- (13) 習和産業(株)
- (14) 神鋼杉田製線(株)
- (15) (株)新日化環境エンジニアリング
- (16) (株)住化分析センター千葉事業所
- (17) セイコーアイ・テクノリサーチ(株)
- (18) (株)ダイワ千葉営業所
- (19) (株)千葉環境技術センター
- (20) 中外テクノス(株)関東営業所
- (21) (株)東京化学分析センター
- (22) (株)永山環境科学研究所
- (23) 日本軽金属(株)船橋分析センター
- (24) ニッカウキスキー(株)
- (25) 日建メンテナンス(株)
- (26) 日広産業(株)
- (27) (株)日本工業用水協会
- (28) 日本廃水技研(株)千葉支店
- (29) (株)日本分析センター
- (30) 日立プラント建設サービス(株)
- (31) ヨシザワL A(株)

(出席会員31社 委任状提出17社)

2) 来 賓

千葉県計量検定所

次 長 斎 藤 博 之 氏
指導技師 米 谷 賢 徳 氏

平成6年度 事業計画

昨今の不況下にあっても、環境問題は、地球レベルのものから身近な問題まで含めて、絶え間なく広がり続けております。昨年11月には環境基本法も制定され、われわれの責務は益々大きなものになってきています。

われわれにとって最も関心の深い環境計量の分野においても、飲料水や環境水質、そして排水まで、基準の改訂が次々と実施される、という極めて激しい動きがありました。

また、計量法も全面的に改訂され、環境計量に関する事業規定も大幅に変更を要することになりました。

このような時、われわれは、社会一般の期待にきちんと応えられるよう、会員が互いに連携して必要な情報の収集や交換の場を持ち、測定分析技術の向上に励むなどの活動を目指して、次の事業を行う。

1. 研修会、講演会、技術発表会等の実施
技術の習得や向上を図るため、研修見学会、

講演会、更に、会員による測定分析技術の事例発表会を実施する。

2. W/Gの結成、共同実験、パネルディスカッションの実施

会員相互の技術レベルや信頼性の向上を図るため、適宜W/Gの結成、共同実験結果、その成果の発表会、パネルディスカッションを実施する。

3. 会誌の発行

当協会の活動状況の広報のため、定期的に会誌を発行する。

4. 協力関係

- ・計量検定所の行事（くらしと計量展等）に協賛する。

- ・日環協、首都圏環協連事業に参画する。

5. 親睦関係

会員相互の親睦を図るため、スポーツ等の催しを行うほか、機会ある毎に懇親会を開催し、更に経営問題に関する意見交換の場も作る。

平成6年度千環協年間スケジュール

月日	事業内容	場所	分掌
4. 28	通常総会	ちば共済会館	総務委員会
5. 6	くらしと計量展実行委員会	ペリエホール	
5. 19	理事会(第97回)		
5. 19	合同委員会	ちば共済会館	総務委員会
7. 1	研修見学会		企画委員会
7. 19	理事会(98回)		
7.	千環協ニュース発行No.41		広報委員会
9. 18	ソフトボール大会		総務委員会
9.	千環協案内発行		業務委員会
9.	理事会(99回)		
11.	理事会(100回)		
11.	W/G成果発表技術事例発表		技術委員会
11.	パネルディスカッションと技術講演会		企画委員会
12.	経営問題懇談会W/G		
12.	理事会(101回)		
12.	千環協ニュース発行No.42		広報委員会
1.	新春講演会		総務委員会
2.	経営問題懇談会		
2.	理事会(102回)		
3.	千環協ニュース発行No.43		広報委員会
3.	会計監査		

平成6年度合同委員会報告

開催日時 平成6年5月19日 13:30~18:00

開催場所 ちば共済会館

本年度の合同委員会は35社46名出席のもと開催され各委員会ごとに事業計画を討議した。

なお今年度より経営問題懇談会に調査開発ワーキンググループを発足させ活動計画を討議した。

当日は来賓として千葉県計量検定所岡村課長、米谷技師が出席された。

委員会別活動計画

1. 総務委員会

1) 第12回ソフトボール大会

場 所 S I I スポーツプラザ

開催日 9月18日(日)

雨天の場合は10月2日(日)

出光興産(株)千葉製油所内

グラウンド

2) 新春講演会

場 所 ちば共済会館

時 期 平成7年1月20日ごろ

演 題 2~3題

(提案し理事会で決定する)

3) 通常総会

場 所 ちば共済会館

時 期 平成7年4月21日ごろ

2. 業務委員会

1) 千環協案内の作成と関係機関への配布

(1) 会員名簿の修正(担当、日本廃水技研(株))

- ・FAX連絡とし、修正の必要がない会員も確認のため全会員に連絡していただく
- ・6月末迄に作成を完了する

(2) 平成5年度版より

- ・千葉県環境計量協会について
- ・千葉県環境計量協会の組織及び事業活動
- ・千葉県環境計量協会規約
- ・測定分析料金積算方式資料等を記載する。なお、今年度よりA4サイズにて発行する。

2) 新規制項目(15項目)について分析料金アンケートを実施する。

(1) 全会員を対象とし無記名方式で実施する

- ・アンケート結果は千環協案内には載せない

(2) 実施予定

- ・アンケート発送 8月下旬
- ・アンケート回収 9月中旬
- ・アンケートまとめ 9月下旬

3. 技術委員会

1) 日環協関東支部環境セミナー/技術事例発表会への参加

- ・開催日10月13日及び14日
- ・発表テーマの募集を6月下旬迄に行なう

2) W/G成果発表及び技術事例発表会の実施

3) W/G別活動計画

(1) 精度管理W/G

「計量証明における報告下限値と有効数値の統一」

~原子吸光光度計の銅定量の精度管理の検討について~

- ・実験要領及びアンケート原案の審議 6月下旬
- ・原案確認(7月下旬発送、8月末迄) 7月中旬
- ・結果審議 10月上旬
- ・最終まとめ及び発表練習 10月下旬

(2) 計量管理W/G

「計量機器管理の周辺」

~濃度計量用標準液のトレーサビリティ他~

- ・テーマ内容の洗い出し 6月下旬
- ・アンケート原案作成 7月
- ・アンケート原案確認及びアンケート実施 9月
- ・アンケート結果集計 10月

(3) クロスチェックW/G

全リン(JIS-0102)のクロスチェックの実施

- ・試料発送 8月下旬
- ・データ回収 9月14日
- ・データ解析、まとめ及び資料作成

10月下旬

(4)騒音・振動W/G

- ・事業規定細則作成に向けて各社の実態把握を行なう
- 特に機器管理と測定方法について(3~4回の会議を実施)

4. 企画委員会

1) 研修見学会

- ・候補先(1)千葉県立現代産業会館 7月上旬
- (2)廃棄物情報技術センター

2) パネルディスカッション

- ・千環協クロスチェック結果について

11月下旬~12月上旬

3) 技術講演会

- ・演題~時宜を得たもの

5. 広報委員会

千環協の活動状況を会員並びに関係各者へ会誌を定期的に発行する

- ・No.41号

通常総会、合同委員会 親睦ゴルフ
会員紹介

(7月下旬発行) 予定

- ・No.42号

研修見学会、ソフトボール大会、技術委員会成果発表会、パネルディスカッション、会員紹介

(12月下旬発行) 予定

- ・No.43号

新春講演会(賀詞交歓会)

経営問題懇談会、親睦ゴルフ、会員紹介

(3月下旬発行) 予定

6. 経営問題懇談会・調査開発W/G

本年度から調査開発W/Gを発足させることになった。

長期的に見て千環協としてお客様との一層の信頼関係を維持し一丸となって対処してゆく必要があると考える。

このような事から調査開発W/Gを発足させ活動規定、目標などを準備委員の間で検討策定しW/G委員へ委嘱する。

・発足準備委員会

活動規定、目標の策定 6月

・第1回W/G委員会

活動方針・計画の策定 7月

・第2回W/G委員会

活動計画の策定 9月

・第3回W/G委員会

活動計画結果のまとめ 11月

・経営問題懇談会

W/Gの成果について 2月

平成6年度 各委員会委員名簿

総務委員会

委員長 名取昭平 セイコーアイ・テクリサーチ(株)

委員 安田和久 セイコーアイ・テクリサーチ(株)

石沢善博 日本軽金属(株)

本田幸弘 中外テクノス(株)

大川統一 環境エンジニアリング(株)君津支店

嘉数良規 (株)君津清掃設備工業

山下信秀 東関東道路エンジニアリング(株)

業務委員会

委員長 高梨正夫 浅野工事(株)環境技術研究所

委員 富士原廣 (株)新日化環境エンジニアリング

鈴木伸久 中外テクノス(株)

前田朝生 (株)産業公害医学研究所

石井清人 (株)東京化学分析センター

須山英敏 月島機械(株)

吉原武宏 月島機械(株)

技術委員会

委員長 佐々木正夫 (株)住化分析センター

千葉事業所

精度管理ワーキンググループ

リーダー 荒木 徹 セイコーアイ・テクリサーチ(株)

委員 阿部竜也 浅野工事(株)

渋谷茂夫 日建メンテナンス(株)

金子正昭 (株)環境エンジニアリング

佐々木昭平 神鋼杉田製線(株)

岩熊直紀 (株)建設技術研究所

高野俊之 (株)総合環境分析研究所

永山瑞男 (株)永山環境科学研究所

クロスチェックワーキンググループ
リーダー 河村秀樹 中外テクノス(株)
委員 小野博利 (株)環境測定センター
狩野春夫 旭硝子(株)千葉工場
大悟法弘充 (株)住化分析センター

千葉事業所
鳥海久美男 (株)千葉県環境技術センター
奥山幸男 日立プラント建設サービス(株)
本田 優 住友セメント(株)
川島範男 (株)日本工業用水協会
大坪光作 (株)飯塚
津上昌平 習和産業(株)

計量管理ワーキンググループ

リーダー 荒木 徹 セイコーアイ・テクノロジー(株)
委員 阿部竜也 浅野工事(株)
渋谷茂夫 日建メンテナンス(株)
金子正昭 (株)環境エンジニアリング
佐々木昭平 神鋼杉田製線(株)
岩熊直紀 (株)建設技術研究所
高野俊之 (株)総合環境分析研究所
永山瑞男 (株)永山環境科学研究所

騒音・振動ワーキンググループ

リーダー 干場義一 環境管理センター(株)
委員 脇坂 勇 (株)三造試験センター
東京事業所
島 孝治 共立エンジニアリング(株)
浜田康雄 (株)上総環境調査センター
藤谷光男 中外テクノス(株)
鈴木民男 (株)ジオソフト
篠原直明 (株)新東京国際空港振興協会

企画委員会

委員長 岡崎成美 出光興産(株)
委員 飯塚嘉久 (株)ユーベック
池田茂夫 日広産業(株)
坂巻 博 日本軽金属(株)
中野 弘 (株)環境計量技術センター
木村 仁 荏原インフィルコ(株)

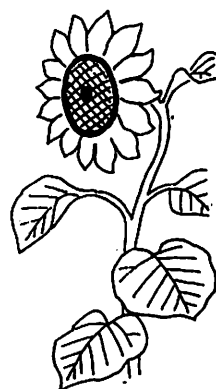
広報委員会

委員長 菅谷光夫 (株)ダイワ
委員 西本和男 京葉ガス(株)
清水隆行 イカリ消毒(株)技術研究所
荒木 匡 (株)日本分析センター

富田陽美 房総ファイン(株)
小野次男 東京公害防止(株)
宮沢康弘 (株)ダイワ

経営問題懇談会

委員長 北原成之 キックマン(株)
調査 開発ワーキンググループ
リーダー 橋本昭洋 ニッカウキスキー(株)



理事会報告

第96回理事会

日時 平成6年3月13日 15:30~18:00

場所 民宿長江（静岡県加茂郡南伊豆町）

出席者 加藤会長、北原副会長、中村副会長
岡崎理事、名取理事、高橋理事
後藤顧問、
特別参加 浅野工事(株) 高梨氏

議題

1. 報告事項

(1)日環協関係（北原副会長）

理事会報告

- ・会員稼動状況の報告
- ・20周年記念行事の承認
- ・厚生年金の推抄状況の報告
窓口を東京都から千葉県に変更
検討委員会を行い設立準備委員会
へ移行する
- ・関東支部役員会
新潟県大会の収支決算報告
技術事例発表の募集
「技術士」創設について
環境監査について

(2)首都圏環境連（中村副会長）

- ・分科会報告
実態～積算事例集のまとめ
次回テーマは計量証明事例
集を作成
濃度～P & T 講習会のQ & Aを
作成・配布
企画～周辺業務である特徴ある業
務の事例募集を行なう

2. 次年度役員人事

- ・業務委員長、西氏死去に伴う後任として、浅野工事(株)高梨氏が推薦された。
- ・加藤会長が社内異動のため退任されるので、中村副会長が会長に、副会長に高橋理事が総務委員長に名取氏が技術委員長に新たに住化分析センター(株)佐々木氏が推薦された。
この役員人事については4月の総会で

承認を得る。

3. 各委員会関係

(1)経営問題懇談会

- ・営業担当者連絡会については、引き続き経営問題懇談会の下部組織としてW/Gとし活動する。
名称は「調査開発W/G」とすることで承認された。

(2)技術委員会

- ・「W/G成果発表及び技術事例発表会」準備マニュアルを作成した。

(3)企画委員会

- ・「研修見学会マニュアル」「パネルディスカッション実施マニュアル」「技術講演会実施マニュアル」を作成した。

(4)事業規程説明会

- ・千葉県計量検定所主催で4月20日実施
テキストは日環協で使用したものを千環協で配布する。
会員は 1部3,000円
会員外は1部3,500円 とする

(5)千葉県水質保全研究所との技術交流について

- ・新水質基準対応等で千環協との交流を投げかけている
- ・クロスチェックは難しい

4. 会計状況報告及び来期予算

- ・本年度会計報告について会長より説明があり承認された。
- ・次期予算については各理事より出された案で承認された。

5. 第18回通常総会について

- ・総会資料の概略チェックを実施さらに各理事で後日検討し問題があれば会長へ申し出る。
- ・計量法の改正に伴う名称変更のため第6号議案を追加して規約の一部改正を提案する。
- ・当日の役割分担の決定

6. その他

- ・次回理事会 5月12日
- ・合同委員会 5月19日

第97回理事会

日時 平成6年5月19日 10:00~13:00
場所 ちば共済会館
出席者 中村会長、北原副会長、高橋副会長
岡崎理事、名取理事、佐々木理事
高梨理事、菅谷理事

議題

1. 報告事項

(1)日環協関係(北原副会長)

平成6年4月19日

於：東京都勤労福祉会館

- ・会員移動状況の報告
正会員のイ：459、ロ：450
- ・5年度事業報告及び収支決算、6年度事業計画及び予算
- ・協会設立20年記念行事について
藤原常任理事からスケジュールの説明があった
5月27日八重洲のホテル国際観光で取り行なう
定期総会と記念式典の段取りで実施
- ・優良事業所表彰について
二宮常任理事から報告がありハードルを高くして申請書を送り募集したところ、45事業所から申請があったが、論文発表、自己管理体制等に問題があり最終的には40事業所程度になりそうである。
- ・厚生年金基金の進捗状況について
後藤副会長から報告があり4月13日全国計量証明事業厚生年金基金の内定をえて、4月19日設立準備委員会を開催し委員長を谷元会長、副委員長を後藤副会長とした。
現在意向書回収5,194名検討中
5,001名
募集目標6,000名
今後は各県単を通じて勧誘を勧める

- ・日環協の長期ビジョンについて
長期ビジョン査定委員会として谷副会長から報告があった。

協会の使命

環境測定分析という視点で環境保全活動を支援する。
地球環境保全に貢献できる環境測定分析機関を育成する。

運営方針

財政基盤の強化、技術者の育成、
情報サービスの提供
環境測定ビジネスノウハウの提供、
アジア環境分析協議会の設立を提唱する。

・地球環境基金

- 地球環境基金助成金について「東
・東南アジア諸国への分析技術」自己管理システムの活用普及というテーマで交付要望した
- ・計量証明事業所のための事業規程等の説明会と質疑応答
詳細については、「環境と測定技術」に掲載予定

(2)首都圏環協連(高橋副会長)

・分科会報告

- 実態～料金積算事例集の作成
千環協から高橋副会長、
(株)新日環境エンジニアリング富士原氏
濃度～P&T講習会のQ&Aを実施
千環協から高梨理事、環境
エンジニアリング(株)大川氏
企画～特徴ある業務の資料作成
千環協から中村会長

・各県単報告

6月迄の各県単における活動を報告

(3)計量展実行委員会

- ・5月6日開催千環協から中村会長出席
- ・千環協から30,000円の負担金
- ・計量なるほど展(11月に開催)



2. 各委員会関係

(1)総務委員会

- ・合同委員会について
- ・ソフトボール大会について
9月18日(日)予定

(2)業務委員会

- ・千環協案内の発行について
B5サイズからA4サイズに変更
する
事業内容区分の検討
測定分析料金アンケートについて

(3)企画委員会

- ・研修見学会を7月に実施する。見学先は千葉県現代産業科学館又は千葉県廃棄物情報技術センターとし企画委員会で決定する。
- ・パネルディスカッションを11月下旬～12月上旬に行なう。

(4)技術委員会

- ・技術事例発表会を11月中旬に行なう

(5)広報委員会

- ・千環協ニュースの発行予定について
No.41を7月末日に発行する。

(6)経営問題懇談会

- ・調査開発W/G発足について
設立準備委員会を召集し今後の活動目標等を決定する。

3. 規約に係わる正会員資格の件

- ・「正会員は千葉県に登録した濃度、音圧レベル、振動加速度レベルに係わる計量証明事業者で、本会の趣旨に賛同する法人とする」を再確認した。

4. 合同委員会関係

- ・各委員会別に実行予算を確認し今年度の活動を再確認した。
- ・当日の役割分担の決定

5. 次回理事会

- ・次回理事会(98回)を7月19日に行なう

調査開発W/G発足準備会報告

日 時 平成6年6月20日 13:00~16:00

場 所 千葉商工会議所

5月19日の合同委員会において、本年度から従来経営問題懇談会の下部組織としてありました、営業担当者連絡会を改組して調査開発ワーキンググループ(W/G)を発足させることが決まりましたので、その発足準備会を6月20日に開催致しました。

出席者は準備委員3名と理事7名の合計10名で、様々な角度から討論しました結果、下記のような活動規定と活動目標を策定し、メンバーを募集することになりました。

1. 調査開発W/Gの活動規定と目標

(1)活動規定

会員の経営発展の寄与する調査開発活動を推進する。

(2)目 標

- ①顧客ニーズの調査
- ②クレーム情報の収集及び検討
- ③最新技術情報の調査
- ④新規業務動向の調査

2. W/Gメンバーの推薦について

活動目標の中に技術サイドからの取り組みが必要なテーマも含まれておりますので、メンバー構成は営業系と技術系の混成が望ましいということになり、合わせて1~2名を各社よりご推薦いただくことになりました。



第19回千環協親睦ゴルフ大会

第19回を数える歴史と伝統ある千環協ゴルフ大会が5月26日、本千葉カントリークラブにて総勢16人のエントリーのもと開催されました。当日は真夏を思わせる絶好の好天に恵まれ言い訳ができませんコンディションのもと日頃鍛えた腕自慢のゴルファーが早くからパットに素振りに最終調整をしながらスタート時間を待っていました。

始めに、中村新会長の始球式に続き熱い戦いが開始されました。

結果はハーフで夢の30台が出るかと終始安定した高野氏がグロス86で初優勝致しました。

	グロス	ハンディ	ネット	
優勝 高野 不二男	86	12	74	
準優勝 本田 優	81	4	77	
3位 石川 茂弘	105	26	79	
4位 枝国 利隆	93	20	73	(初参加)
5位 菅谷 光夫	94	9	85	

千環協ゴルフ大会に優勝して

セイコーアイ・テクノロジー(株)

高野 不二男

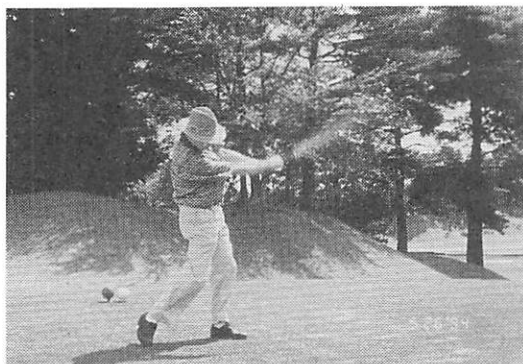


ゴルフ大会参加者一同

九州地方では梅雨入り発表が出されたにもかかわらず、天候に恵まれ、またメンバーにも恵まれて千環協ゴルフ大会で初優勝することが出来ました。

特に、菅谷氏には前半引張って戴いたお蔭で好スコアを出す事が出来たのではないかと思います。ただ一つ残念な事は、夢の30台スコアにあと一步のところまで達成できなかった事です。西コース8番ショートホールで2m弱につけニアピンを取ったところまでは良くバーディーパットをハズシ、夢は消え去りました。夢は、後に残して置くことにして次回もまた、頑張りたいと思っています。

最後になりましたが皆様、そして幹事さん大変お世話になりました事を心から御礼申し上げます。



中村新会長の始球式



優勝カップの授与

会 員 紹 介

東関東道路エンジニア株式会社

白井試験室

・会社概要

当社は昭和59年11月に高速道路及びこれに準ずる道路並びにこれらの道路の付属施設についての計画、調査、測量、試験、設計、施工および施工管理、維持管理等の業務を行なうことを目的として設立し、試験、調査部門の一つとして白井試験室を設けました。

計量証明の事業登録は昭和60年1月の濃度関係を白井試験室で、昭和59年12月に騒音レベル、平成6年3月に振動加速度レベルの登録を本社で受け道路及びその周辺等の環境調査を行なっております。

また、近年首都圏において道路建設に使用する良質な土砂、石が枯渇し、コンクリートの配合や品質の管理に関する試験、さらに既設の道路に関しては、コンクリート構造物の劣化、耐久性試験が注目されています。そこでこれら試験の技術者の育成を目的として平成元年2月にコンクリート試験室を設けております。

なお、水質関係の分析は現在迄ほとんど行なっておりませんが、今後は汚水処理施設の維持管理部門もありますので、これからの施設の機能調査や障害の原因究明及び実験等に活用したいと思っております。

当試験室はこのような現場ですが、千環協会の皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。

白井試験室

所在地：〒270-14

千葉県印旛郡白井町河原子249-9

T E L : 0474-91-4336

本 社

所在地：〒110

東京都台東区台東2-27-7

日土地御徒町ビル6F

T E L : 03-3835-0130

F A X : 03-3835-3775



ヨシザワエルエー株式会社

環境分析センター

当社は大正6年、鉛の総合加工メーカーとして発足以来70有余年にわたり、鉛製品全般及び化学プラント機器とその関連工事、さらに原子力関連機器と、各分野において、ご需要家のご愛顧と信頼を戴いて発展してまいりました。

昭和56年より社名を芳沢機工東部株式会社として、芳沢機工株式会社より独立、更に昭和63年からはヨシザワエルエー株式会社に社名を変更し、時代の流れ科学技術の発展に即応した製品を提供してまいりました。ちなみに、よく客先よりヨシザワエルエー株式会社のエルエーとは何の意味かと質問を受けますが、LEAD ATOMIC（鉛・原子力）の頭文字LAをとったものであります。

環境分析センターは、ヨシザワエルエー株式会社の組織においては、開発部に位置づけされております。

創業以来、鉛及び非鉄金属の品質管理業務、あるいは開発に係わる研究の中で、その技術の向上をはかってまいりました。

昭和51年4月に濃度計量証明事業登録を受けて環境測定業務を始め、社会の環境保全に微力ながら貢献いたしてまいりました。

今後も“地球のハートを大切に”の合言葉を実践に公害時代から培った測定技術をいかし、21世紀に向け人間らしい生き方の創造に少しでもお役にたてたらと思ひ、ゆっくりと人間と環境の接点を探りながら地道に進んで行きたいと考えますので、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

業務内容

環境測定……水質分析	非鉄金属……鉛地金及び各種地金
大気・排ガス測定	定量分析 鉛合金及び各種合金
産業廃棄物分析	ハンダ・特殊合金
土壌・底質分析	

所在地

本社及び環境分析センター

〒277 千葉県柏市新十余ニ17番地1

TEL 0471-31-4121 (代)

0471-31-4122 (直通)

0471-31-0506



公害研究合同発表

新規水質環境基準項目における無機物質の分析

小倉 光夫（神奈川県環境科学センター） 徳野 克彦（中央大学理工学部）

1 目的

平成5年3月水質汚濁に関する環境基準が改定され、環境基準項目23物質と要監視項目（人の健康の保護に関する物質であるが、現時点では直ちに環境基準項目とせず、引き続き知見の集積に努めるべきと判断される物質）25物質について基準値及び指針値が定められた。これによって地方自治体では公共用水域及び地下水の常時監視を求められることとなった。ここでは、新規水質基準項目の中の無機物質（表-1）の分析方法について述べる。これらのうち、同一の定量操作では分析可能な項目は、効率の観点からまとめて前処理を行なうこととし、定量下限値は基準値等の10分の1を目標とした。

2 方法

2-1) 試料の前処理

(1) ひ素、セレン、アンチモン

試料75mlをビーカーに取り、硫酸（1+1）1ml、硝酸2ml（海水試料の場合はそれぞれ2ml、1.5mlとする）を加え、直火又は約120℃の砂浴上で静かに加熱分解する。徐々に温度を上げ、十分に硫酸白煙を発生させる。放冷後塩酸10mlを加え約90℃の水浴上で10分間濃縮後加温する。この溶液を水ですすいで30ml目盛付共栓試験管に移し、30mlとした。これを試験溶液とした。

(2) 鉛、ニッケル、モリブデン¹⁾²⁾

試料750mlをビーカーに取り、塩酸10mlを加えて直火で約10分間静かに煮沸する。放冷後、酢酸-酢酸ナトリウム緩衝液（pH5）10mlを加え、アンモニア水（1+1）及び硝酸（1+10）でpHを5.2に調節する。この溶液を1ℓ分液漏斗に移し、ピロリジナルポジチオ酸アンモニウム（APDC）（20g/ℓ）2ml、ヘキサメチレンアンモニウムヘキサメチレンカルボジチオ酸アンモニウム（HMAHMDc）（20g/ℓ）2mlを加えて混合した後、キシレン15mlを加えて約5分間激しく振り混ぜる。水層を捨て、キシレン層を100mlビーカーに移す。ビーカーを約140℃の砂浴上に乗せ、ドライヤーで熱風を吹きつけながらキシレンを揮散させた後、硝酸2mlと過塩素酸1mlを加えて加熱し、有機物を分解する。過塩素酸の白煙を充分発生させた後放冷し、水少量を加えて加温溶解後、20ml目盛付共栓試験管に移し、15mlとした。これを試験溶液とした。

(3) ほう素³⁾

淡水試料では必要に応じて、No5・Bろ紙でろ過する。海水試料では水で10倍に希釈する。これを試験溶液とした。

2-2) 定量操作

(1) ひ素、セレン、アンチモン

加熱吸収セルによる連続式水素化物発生原子吸光法を用いた。送液は試験溶液8ml/min.、10M塩酸及び1.0%テトラヒドロほう酸ナトリウム-0.5%水酸化ナトリウム-10%よう化カリウム1ml/min.で、ペリスタルティックポンプで行った。検量はひ素、セレン、アンチモン、各0、0.5、1、3、5、10μg/ℓ混合標準溶液から作成した。

(2) 鉛、ニッケル、モリブデン

検量線法によるICP発光分析法を用いた。分析線は、鉛220.351nm、ニッケル221.647nm、及びモリブデン202.030nmを用いた。検量線は鉛、ニッケル、モリブデン各0、0.01、0.05、0.5、5.0μg/ml混合標準溶液から作成した。

(3) ほう素

(3) ほう素

内標準法による ICP 発光分析法を用いた。分析線は、ほう素 249.773 nm, 内標準元素のイットリウムは 371.029 nm を用い、ほう素とイットリウムの発光強度の比を同時測定した。検量線はほう素 0, 0.02, 0.2, 2.0, 20 $\mu\text{g}/\text{ml}$, イットリウム各 2.5 $\mu\text{g}/\text{ml}$ から作成した。

3 結果の要約

- 1) ひ素、セレン、アンチモンは、JIS K 0102¹⁾ では 3 元素を個別に前処理、定量操作を行うこととなっているが、本法では一括操作で行えることが確認された (図-1)。3 元素は、2.5 倍濃縮によって 0.2 $\mu\text{g}/\text{l}$ は充分定量可能である。

なお、海水のような高塩濃度試料の前処理では、硫酸に代えて過塩素酸の方が突沸が少ない。試料の濃縮法として、水酸化ランタン共沈法¹⁾も有用と考えられる。

- 2) 鉛、ニッケル、モリブデン定量では、ここでは溶媒抽出後キシレンを揮散させ、酸に溶解する方法を用いたが、キシレンをそのまま ICP 発光分光に導入する方法が簡便である。しかし、有機溶媒噴霧では高周波出力を上げると共に溶媒用トーチに付け替える必要があるため、酸に溶解することとした。図-2 に示したように検量線はニッケル、モリブデンでは 0.05 $\mu\text{g}/\text{ml}$ まで直線性が得られたが、鉛では 0.1 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 程度が定量下限と考えられた¹⁾。従って、本法では試料 750ml を 15ml に濃縮しているため、ニッケル、モリブデンは基準値の 10 分の 1 以下である 0.001 $\mu\text{g}/\text{ml}$ の定量は可能であると考えられるが、鉛では 0.002 $\mu\text{g}/\text{ml}$ が下限と思われる。なお、超音波ネブライザーを使用すれば更に下限値を下げる事が可能である²⁾。本法 (APDC/HMAHMDc/キシレン抽出法) によれば標記 3 元素の他、カドミウム、銅、鉄、マンガン、亜鉛、(クロム)、コバルト、バナジウムも同時定量が可能である¹⁾²⁾。

- 3) ほう素では指針値の 10 分の 1 である 0.02mg/l までの直接定量が可能である。(図-2)

4 参考文献

- 1) JIS K 0102-1993, 52.4, 61.2, 62.2, 67.2
- 2) (株)日本工業用水協会 平成 4 年度 工場排水試験方法講習会要旨 97-108
- 3) 北村秀樹・杉前昭好・中本雅雄 (1984) : 誘導結合高周波プラズマ発光分析法による水中の微量ほう素の定量、水質汚濁研究 第 7 巻 23-29
- 4) 中村 智・服部幸和・中本雅雄 (1992) : 水素化物生成/ICP 発光分析法によるヒ素、アンチモン、ビスマス、セレン、テルル、ゲルマニウムおよびスズの定量に関する基礎的検討 (第 2 報) - 共存元素による干渉の除去に関する検討、大阪府公害監視センター所報 17-26

5 図・表

表-1 新環境基準 (無機物質) (mg/l)

基準項目	基準値	要監視項目	指針値
ひ素	0.01	アンチモン	0.002
セレン	0.01	ニッケル	0.01
鉛	0.01	モリブデン	0.07
		ほう素	0.2

6 図.

図-1 ひ素、セレン、アンチモンの検量線

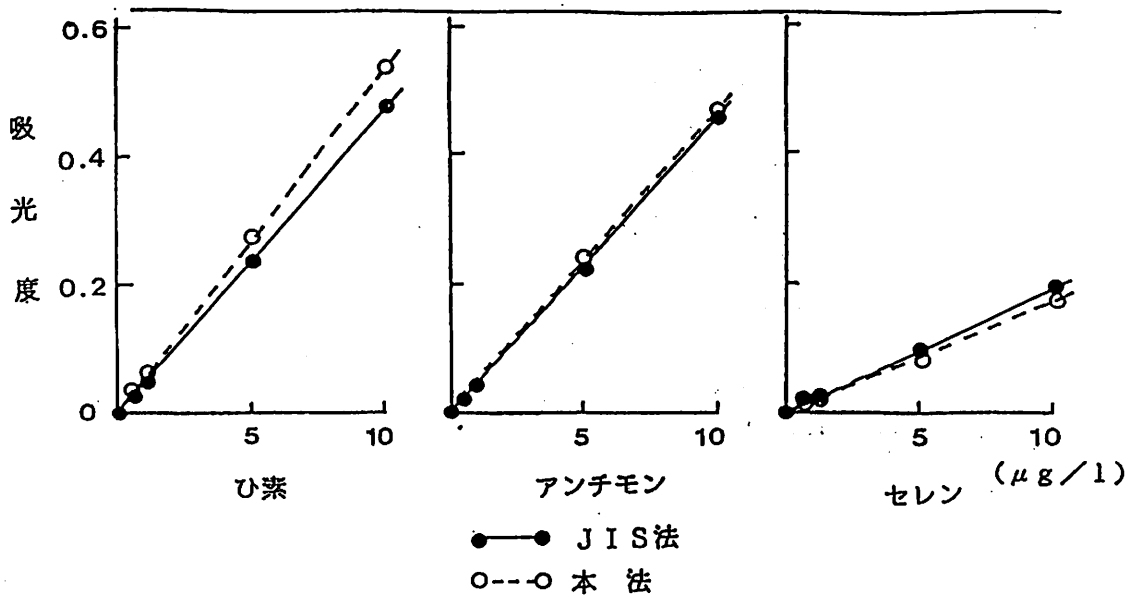
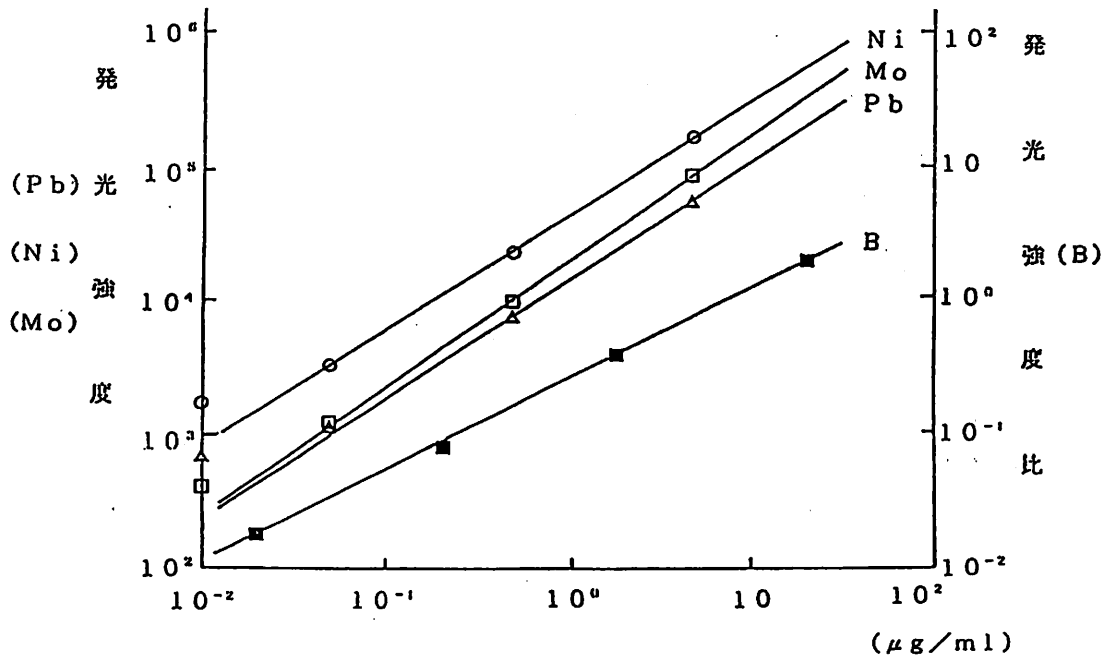


図-2 鉛、ニッケル、モリブデン、ほう素の検量線



千葉県廃棄物情報技術センター設立のご案内

近年、人口の増加や産業活動の活発化に伴い、また、使い捨ての傾向が進み、廃棄物の量が増えるとともに、その種類も多くなっています。

また一方では、都市化が進むに従って、廃棄物の処理施設をつくることが困難になってきています。

このため、廃棄物を出さなくしたり、量を減らしたり、再び利用したり、再び資源とするための調査研究や技術の開発を行い、さらに、広く県民・事業者・市町村の方々に廃棄物に関するいろいろな情報を提供するとともに、環境学習ができるよう、展示、図書、視聴覚の各コーナーを備えた施設として、廃棄物情報技術センターが設立されました。

このセンターは、廃棄物についての技術開発や調査研究と情報提供・啓発を併せて行うことのできる独立した施設としては、全国で初めての施設です。

事業内容

システム開発事業

システム開発事業は、県民・事業者・処理業者及び県行政・市町村行政を支援するため、廃棄物の発生抑制・減量化・再資源化及び最終処分の各段階において、適正な仕組みづくりや取組方法の調査研究を行います。

技術開発事業

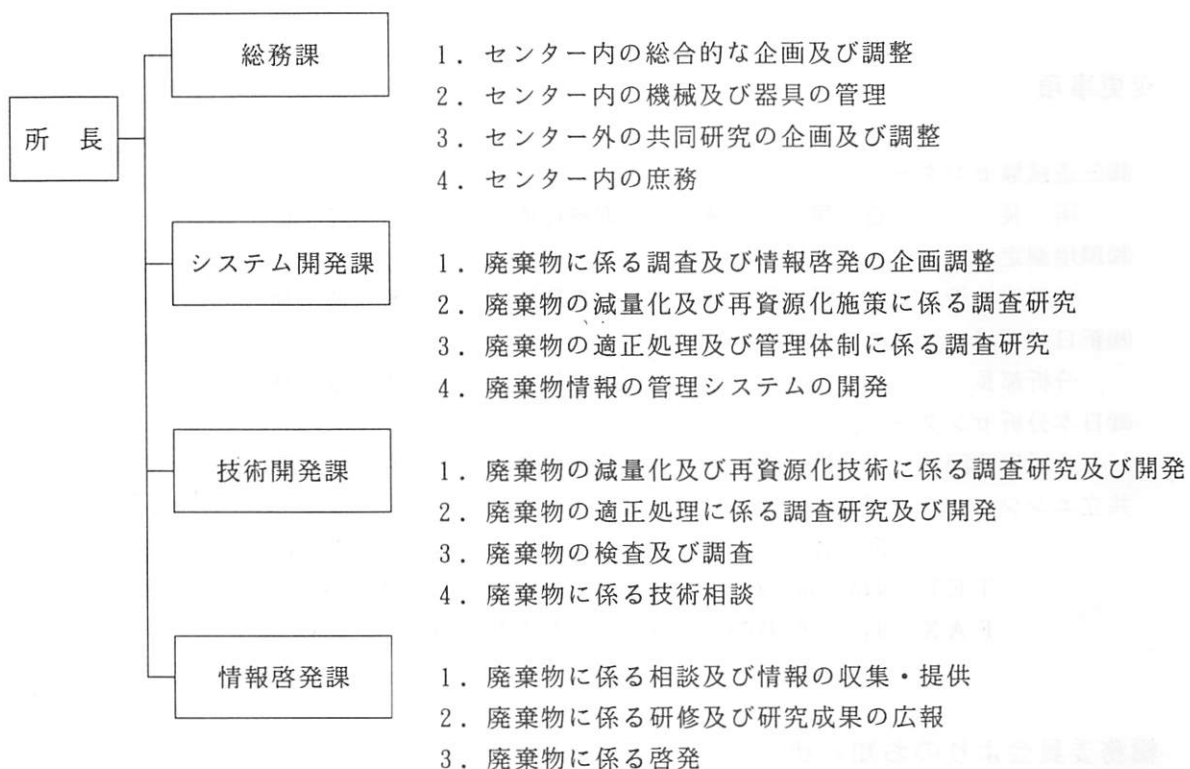
技術開発事業は、廃棄物の減量化・再資源化と適正処理のために必要な技術開発を行い、その利用を促進します。更に、技術指導等のため、各種の分析・検査等を行います。

情報啓発事業

情報啓発事業は、廃棄物に関する情報の収集と提供を行います。また研修会等を開催し、広く県民・事業者・処理業者へのPR・啓発を行います。



組織及び業務



〒290 市原市岩崎西 1 - 8 - 2

T E L 0436(23)7777

F A X 0436(23)2870

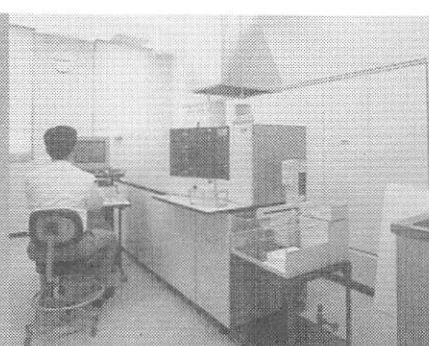
環境学習施設のお問合わせ先

情報啓発課

T E L 0436(24)5309



機械分析室



高周波誘導結合プラズマ発光分光分析装置



走査型電子顕微鏡



イオンクロマトグラフ

事務局だより

変更事項

(株)三造試験センター

所長 石居 誠 → 取締役所長 久米 範佳

(株)環境測定センター

代表取締役 小野 英敏 → 代表取締役 小野 博利

(株)新日化環境エンジニアリング

分析部長 西 徹 → 取締役部長 有馬 富穂

(株)日本分析センター

分析業務課 真田 哲也 → 分析業務課 室井 隆彦

共立エンジニアリング(株)

宮竹 章 → 島 孝治

TEL 043-256-9881 → TEL 043-285-1911

FAX 043-256-9260 → FAX 043-285-1949

総務委員会よりのお知らせ

ソフトボール大会 期日 9月18日(日)

場所 セイコー電子工業(株) 谷津スポーツプラザ
習志野市茜浜1-1-1



会 員 名 簿

会 員 名	連 絡 場 所	連絡担当者	事 業 区 分					備 考
			濃 度			証	調 査	
			燻	煩	埃			
浅野工事(株) 環境技術研究所 代表取締役社長 雑賀 俊一	千葉市中央区都町 1-49-2 〒260 TEL 043-234-8628 FAX 043-234-8629	高梨 正夫		○				理事 (業審)
旭硝子(株) 千葉工場 工場長 小西 健二	市原市五井海岸 10 〒290 TEL 0436-23-3149 FAX 0436-23-3126	品質保証課 渋谷 英世	○	○	○			
(株) 飯塚 環境技術研究所 代表取締役 飯塚 貴之	松戸市紙敷 599 〒271 TEL 0473-91-1156 FAX 0473-91-8000	所長 大坪 光作	○	○	○			
イカリ消毒(株) 技術研究所 代表取締役所長 黒沢 聡樹	千葉市中央区千葉寺町 579 〒260 TEL 043-264-0126 FAX 043-261-3444	所長代理 清水 隆行	○	○	○			
出光興産(株) 千葉製油所 取締役所長 山本 昂	市原市姉崎海岸 2-1 〒299-01 TEL 0436-61-1215 FAX 0436-61-1511	品質管理課 岡崎 成美	○	○	○			理事 (企画)
荏原インフィルコ(株) 袖ヶ浦工場 工場長 古田 稔	袖ヶ浦市中袖 35 〒299-02 TEL 0438-63-4622 FAX 0438-63-4922	木村 仁		○	○			
(株) オートテック 研究センター 代表取締役専務・所長 古田 力久	佐倉市大作 2-4-2 〒285 TEL 043-498-3912 FAX 043-498-3919	畑堀 尚生	○	○	○			
(株) 上総環境調査センター 代表取締役 浜田 康雄	木更津市潮見 4-16-2 〒292 TEL 0438-36-5001 FAX 0438-36-5073	業務課 白石 清隆	○	○	○	○		
川鉄テクノロジー(株) 分析・評価センター 千葉事業所 取締役所長 小石 想一	千葉市中央区川崎町 1 〒260 TEL 043-262-2313 FAX 043-266-7220	主任 岡野 隆志	○	○	○	○		
(財) 川村理化学研究所 理事長 高橋 武光	佐倉市坂戸 631 〒285 TEL 043-498-2111 FAX 043-498-2879 隣 2210	分析研究室 高田加奈子		○	○			
環境エンジニアリング(株) 君津支店 専務取締役支店長 西原 亮一	君津市君津 1 〒299-11 TEL 0439-52-3810 FAX 0439-55-1419	分析課長 吉田 常夫	○	○	○	○	○	
(株) 環境エンジニアリング 市川研究所 所長 岡本 恭一	市川市田尻 3-4-1 〒272 TEL 0473-70-2561 FAX 0473-70-3050	金子 正昭	○	○	○			

会 員 名	連 絡 場 所	連絡担当者	事 業 区 分					備 考
			濃 度		証	種	類	
			燻	積				
(株) 環境管理センター 千葉事業所長 高橋 直行	千葉市中央区稲荷町 71 〒260 TEL 043-261-1100 FAX 043-265-2412	所 長 高橋 直行	○	○	○	○	○	副会長
(有) 環境計量技術センター 所 長 代田 和宏	浦安市北栄 4-15-10 〒279 TEL 0473-54-8081 FAX 0473-52-1139	所 長 代田 和宏		○				
(株) 環境コントロールセンター 代表取締役社長 松尾 大邑	千葉市中央区宮崎町 180-4 〒260 TEL 043-265-2261 FAX 043-261-0402	環境課 守 謙志	○	○	○			
(株) 環境測定センター 代表取締役社長 小野 博利	千葉市花見川区検見川町3-1953 御園生ビル2 F 〒262 TEL 043-274-1031 FAX 043-274-1032	代表取締役社長 小野 博利	○	○				
キ ッ コ ー マ ン (株) 分析センター 分析センター長 北原 成之	野田市野田 350 〒278 TEL 0471-23-5080 FAX 0471-23-5188	分析センター長 北原 成之	○	○	○	○	○	副会長
(有) 君津清掃設備工業 取締役社長 松尾 国昭	袖ヶ浦市横田 3954 〒299-02 TEL 0438-75-3194 FAX 0438-75-7029	嘉数 良規		○				
共立エンジニアリング(株) 環境調査部 代表取締役 田中 敏	千葉市稲毛区弥生町 4-37 〒263 TEL 043-285-1947 FAX 043-285-1949	部長代理 島 孝治		○	○	○	○	
京 葉 ガ ス (株) 生産部技術センター 取締役供給生産部長 半田 憲治	市川市市川南 2-8-8 〒272 TEL 0473-25-3360 FAX 0473-26-1759	西本 和男		○	○			
(株) 建設技術研究所 応用理学部 部 長 山下 佳彦	柏市明原 1-2-6 〒277 TEL 0471-44-3106 FAX 0471-43-2572	岩熊 真起		○	○			
公害計器サービス(株) 代表取締役社長 佐藤 政雄	市原市出津 7-8 〒290 TEL 0436-21-4871 FAX 0436-22-1617	専務取締役 佐藤 政敏	○	○	○			
(株) 産業公害・医学研究所 代表取締役社長 三竹 英雄	東京都中央区日本橋室町2-1-1 三井本館 6 F 〒103 TEL 03-3246-8085 FAX 03-3246-8030	技術部長 佐々木直久	○	○	○			
(株) 三造試験センター 東部事業所 取締役所長 久米 範佳	市原市八幡海岸通 1 〒290 TEL 0436-43-8931 FAX 0436-41-1256	試験検査部長 脇坂 勇	○	○	○			

会 員 名	連 絡 場 所	連絡担当者	事 業 区 分					備 考	
			濃 度			証	種		類
			規	積	境				
(株) ジ オ ソ フ ト 代表取締役社長 鈴木 民夫	千葉市美浜区磯辺 1-16-1 〒261 TEL 043-248-5378 FAX 043-248-0478	鈴木 民夫				○			
習 和 産 業 (株) 代表取締役 柴田勝次郎	習志野市東習志野 7-1-1 〒275 TEL 0474-77-5300 FAX 0474-93-0982	環境管理センター 課長 津上 昌平	○	○	○	○		監 事	
昭 和 電 工 (株) 千葉事業所 取締役所長 佐久間 洋	市原市八幡海岸通 3 〒290 TEL 0436-41-5111 FAX 0436-41-3972	品質保証課 課長 井川 洋志	○	○	○				
神 鋼 杉 田 製 線 (株) 代表取締役社長 杉田 光治	市川市二俣新町 17 〒272 TEL 0473-27-4517 FAX 0473-28-6260	分析室長 佐々木昭平		○	○				
(財)新東京国際空港振興協会 理事長 松井 和治	成田市東三里塚字中之台 118 〒286-01 TEL 0476-32-7625 FAX 0476-32-6726	調査事業課 篠原 直明				○			
(株)新日化環境エンジニアリング 君津事業所 所長 足立 剛	君津市君津 1 〒299-11 TEL 0439-55-2709 FAX 0439-55-1657	取締役部長 有馬 富穂	○	○	○				
(株)住化分析センター 千葉事業所 取締役所長 加藤 安之	市原市姉崎海岸 131 〒299-12 TEL 0436-61-9039 FAX 0436-61-2122	佐々木正夫	○	○	○			理 事 (技 術)	
住 友 金 属 鉦 山 (株) 中央研究所 所長 千野 健一	市川市中国分 3-18-5 〒272 TEL 0473-72-7221 FAX 0473-72-9133	分析センター長 永井 巖		○	○				
住 友 セ メ ン ト (株) 環境技術センター 所長 本田 優	船橋市豊富町 585 〒274 TEL 0474-57-0751 FAX 0474-57-7871	本田 優		○	○	○			
セイコーアイ・テクノロジー(株) 代表取締役社長 名取 昭平	松戸市高塚新田 563 〒271 TEL 0473-91-2298 FAX 0473-92-3238	代表取締役社長 名取 昭平	○	○	○			理 事 (総 務)	
(株)総合環境分析研究所 代表取締役 高野 俊之	松戸市樋野口 616 〒271 TEL 0473-63-4985 FAX 同上	高野 俊之	○	○	○				
(株) ダ イ ワ 千葉営業所 取締役所長 菅谷 光夫	東金市家徳 238-3 〒283 TEL 0475-58-5221 FAX 0475-58-5415	所長 菅谷 光夫	○	○	○	※	※	理 事 (広 報)	

※：県外事業所登録

会 員 名	連 絡 場 所	連絡担当者	事 業 区 分					備 考
			濃 度		証	種	類	
			燻	煙				
妙 中 鋳 業 (株) 総合分析センター 代表取締役社長 妙中 寛治	茂原市大芝 452 〒 297 TEL 0475-24-0140 FAX 0475-23-6405	室 長 金井 弘和	○	○	○			
(財)千葉県環境技術センター 理 事 長 井上 富夫	市原市五井南海岸 3 丸善石油化学(株)千葉工場内 〒 290 TEL 0436-23-2618 FAX 0436-23-1031	業務部長 石川 茂弘		○	○			
(社)千葉県浄化槽協会 理 事 長 株木 寒吉	千葉市中央区中央港 1-11-1 〒 260 TEL 043-246-2355 FAX 043-248-6524	水質検査室長 鈴木 幸治		○				
中 外 テ ク ノ ス (株) 関東営業所 所 長 中村 豊	千葉市稲毛区黒砂 1-14-9 〒 263 TEL 043-243-3511 FAX 043-243-6740	営業課 鈴木 信之	○	○	○	○	○	会 長
月 島 機 械 (株) 代表取締役社長 黒板 行二	市川市塩浜 1-12 〒 272-01 TEL 0473-59-1653 FAX 0473-59-1663	須山 英敏	○	○	○			
(株)東京化学分析センター 代表取締役社長 森本 長正	市原市玉前西 2-1-52 〒 290 TEL 0436-21-1441 FAX 0436-21-5999	石井 清人	○	○	○			
東 京 公 害 防 止 (株) 代表取締役社長 小野 次男	東京都千代田区神田和泉町 1-10-1 広瀬ビル 3 F 〒 101 TEL 03-3851-1923 FAX 03-3866-7483	代表取締役社長 小野 次男	○	○	○			
東 京 道 路 エ ン ジ ニ ア (株) 代表取締役社長 戸谷 是公	東京都文京区湯島 3-1-3MHビル 〒 113 TEL 03-3834-0851 FAX 03-3834-7112	課長 鈴木 倫二	○	○		※	※	
(株)永山環境科学研究所 代表取締役社長 永山 瑞男	鎌ヶ谷市南初富 1-8-36 〒 273-01 TEL 0474-45-7277 FAX 0474-45-7280	環境計量士 永山 瑞男	○	○	○	○	○	監 事
ニ ッ カ ウ キ ス キ ー (株) 生産技術研究所 分析センター 取締役所長 宇野 正紘	柏市増尾字松山 967 〒 277 TEL 0471-72-5472 FAX 0471-75-0290	センター室長 橋本 昭洋		○	○			
日 本 軽 金 属 (株) 船橋分析センター センター長 伊東 俊夫	船橋市習志野 4-12-2 〒 274 TEL 0474-77-7646 FAX 0474-78-2437	坂 卷 博	○	○	○			
日 建 メ ン テ ナ ン ス (株) 代表取締役 大迫 秀隆	船橋市山手 1-1-1 〒 273 TEL 0474-35-5061 FAX 0474-35-5062	安川 準一		○				

※：県外事業所登録

会 員 名	連 絡 場 所	連絡担当者	事業区分				備 考
			濃 度			証	
			燻	櫃	塊		
日 広 産 業 (株) 環境技術センター 代表取締役社長 田中 譽典	千葉市中央区川崎町 1 〒260 TEL 043-266-8041 FAX 043-262-4340	池田 茂夫		○			
(社) 日本工業用水協会 水質分析センター 所 長 岩崎 岩次	市川市南八幡 2-23-1 〒272 TEL 0473-78-4560 FAX 0473-78-4573	主任技師 川島 範男		○	○		
日 本 廃 水 技 研 (株) 千葉支店 代表取締役社長 荒西寿美男	市川市相之川 2-1-21 〒272-01 TEL 0473-58-6016 FAX 0473-57-6936	斎藤 充		○	○		
(財) 日本分析センター 会 長 斎藤 信房	千葉市稲毛区山王町 295-3 〒263 TEL 043-423-5325 FAX 043-423-5326	分析業務課 室井 隆彦	○	○	○		
東 関 東 道 路 エ ン ジ ニ ア (株) 代表取締役社長 宮本 潔	東京都台東区台東 2-27-7 日土地御徒町ビル 6 F 〒110 TEL 03-3835-0130 FAX 03-3835-3775	森田 浩	○			※ ※	
日立プラント建設サービス(株) 環境技術センター 代表取締役 武井 弘勝	松戸市上本郷字船付 537 〒271 TEL 0473-65-3840 FAX 0473-67-6921	環境センタ 岩井 雅		○	○		
房 総 フ ァ イ ン (株) 代表取締役社長 榑原 崇夫	茂原市東郷 1900-1 三井東圧化学(株)内 〒297 TEL 0475-22-2727 FAX 0475-25-3185	環境事業部 富田 陽美	○	○	○		
(有) ユーベック 代表取締役社長 飯塚 嘉久	木更津市久津間 613 〒292 TEL 0438-41-7878 FAX 0438-41-7878	飯塚 嘉久	○	○	○		
ヨシザワ L A (株) 環境分析センター 代表取締役社長 下杉 善胡	柏市新十倉 17-1 〒277 TEL 0471-31-4122 FAX 0471-31-0506	小川原正夫	○	○	○		

※：県外事業所登録

編 集 後 記

連日の熱帯夜に寝覚めがちな短夜を繰り返しています。

天気予報をながめては一雨ほしいと願っている今日このごろです。

会員の皆様は、いかがお過ごしですか？

今年度から新たに会員の経営活動に寄与する調査開発を目的に経営問題懇談会の下部組織として調査開発ワーキンググループが発足しました。

千環協行事も益々、活動内容が充実してまいりました。今後も会員皆様方のご協力のほど宜しくお願いいたします。

編集委員 荒木、清水
西本、菅谷

千環協ニュース第41号

平成6年7月20日

発行 千葉県環境計量協会

〒260 千葉県中央区稲荷町71番地

(株)環境管理センター内

TEL (043) 261-1100

印刷 東金印刷株式会社

〒283 東金市東金405

TEL (0475) 52-2859